

令和6年度 ふるさとのづくり支援事業

市町村名		島根県出雲市
事業名		～出雲から世界へ～キャリーバッグで運べる出雲流庭園並びに出雲灯ろうリサイクルによる新庭園開発事業
企業等概要	企業等の名称	株式会社タケダ造園
	代表者氏名	竹田 和彦
	所在地	島根県出雲市下横町 402
	連絡先	0853-28-8282
	U R L	https://www.takezofarm.co.jp/

令和8年1月現在

【事業者概要】

- ・昭和59年に設立し、道路の街路樹の整備など公共事業を中心に請け負っていた。15年ほど前から民家の庭を中心とした事業展開にシフトしてきた。
- ・現在は造園業だけでなく、土木工事や外構及びエクステリアの設計・施工なども行い、営業範囲も松江市や雲南市、大田市といった近隣市まで及ぶ。

【事業概要】

◇背景・経緯

- ・出雲式日本庭園は2、30年前より製作していたが、時代とともに撤去してほしいという依頼の方が増えており、日本国内での需要低下を実感していた。しかし、平成30年にパリで開催された日本の食文化を発信するイベントを訪れた際に、日本庭園への関心が高まっていることを感じた。
- ・当初は日本庭園そのものの輸出を検討したが、コロナによる影響や輸送コストの増加により、ポータブル化された商品の開発にシフトした。その検討の際に本補助金制度を知り、活用することとなった。

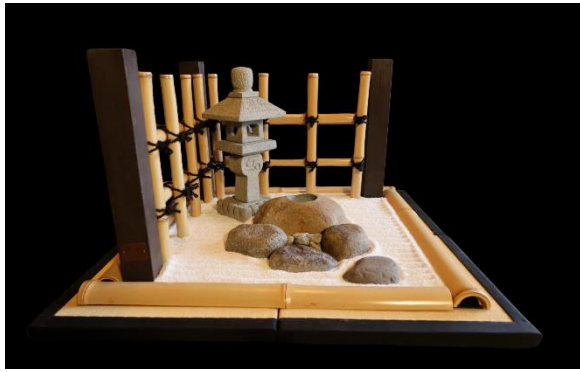
◇開発概要

- ・誰でも簡単に組み立てが可能な組立式日本庭園で、専用のキャリーバッグで持ち運ぶことも可能。(70cm×70cm×38cm、18kg)
- ・安価な中国素材でも実現可能なため、差別化のために素材へのこだわりを重視。使用されている灯ろうは日本庭園の減少に伴い廃棄されていたものをリサイクルしたものである。

【成果】

◇地域性・特徴

- ・景石には出雲地方を流れる一級河川「斐伊川」から取れた石のみを使用し、石肌の質感や色艶、表から見た形を吟味。また、灯ろうは出雲地方で産出される来待石を使用、支柱の木材は島根県産天然杉材を使用するなど、地域産品で構成されている。
- ・プレマーケティングの際のアドバイスを基に組立技術等の特許申請も行った。



完成品



一級河川「斐伊川」

◇商品化・販売先

- ・現在の販売実績は未だなく、販路開拓を行っているところである。
- ・当初は展示会でPRを実施したが、貿易会社等は大規模生産による低コスト化を求めており、少数生産で品質を維持したい同社との意向と合わなかった。現在は、テレアポで反応のあった海外の造園業者とフランスへ出店予定のある日本事業者との連携を強化する方向で動いている。

【今後の展望】

- ・販路が確保され量産化が見込まれれば、地元職人を雇用する予定。職人の中には気候条件等により仕事が減少することがあるため、工場を整えて仕事を提供できればと考えている。
- ・複数回にわたりフランスへ商談に行くたびに、日本庭園の輸出の難しさを感じているが、その理由の1つが日本庭園を作り上げる複数の職人をアテンドできる人材や機関が存在しないことである。既に需要の高い盆栽の専門家も含めて、欧州へ向けて連携を強化するため、コンソーシアムを設立したいと考えており、NPOの専門家の指導を受けている。
- ・派生商品として、壁に掛ける日本庭園の構想もしている。